

今日の説教のポイント <マタイによる福音書 11 章 20 節～30 節>

①イエス様は裁かれる方？

珍しく激しい口調で裁きの言葉を語られるイエス様です。しかし、それにつまずいてはなりません。このすぐ後には、対照的に、「**幼子のような者**」(25)や「**疲れた者**」「**重荷を負う者**」(28)のことを思われるイエス様の姿が出て来ます。神様が罪人を裁かれることを、私たちがおかしいと言う資格はありません。しかし聖書は、その罪犯し裁かれても何も言えないはずの私たちに、**悔い改める** (20, 21。メタノエオー：神の方に方向転換すること) 道を与え、罪赦し、新たな命の道を用意して下さる神様がおられることの方に重点を置いて語っている書物なのです！ イエス様が裁きの言葉を語っていることに驚くと言うなら、そのお方が「**だれでもわたしのもとに来なさい。休ませてあげよう**」(28)と語って下さっていることにもっと驚き、そのイエス様のもとに行くこと (悔い改めること) が大事なのです！

②賢い者より無知な者が幸いである理由。

イエス様が叱られたのは、イエス様の奇跡を見ても悔い改めようとしなかった人たちです。それについてイエス様は、「**(神様が) 知恵ある者や賢い者には隠して、幼子のような者にお示しになりました**」(25)と言われました。ここで「**幼子**」と訳されている元のギリシア語は、「**無知な者、無学な者**」とも訳せる語です。これで分かりますね。ただ知恵あり、賢いというだけでは、神様を認めようとしない傲慢の罪を犯しかねないのです。「**自分の無知を知る者にこそ、幸あり**」とされる所以です(5:3。心の貧しい人は幸いである、の意)。

③恵みの神様に委ねて歩み行く時に与えられる喜び。

「**ヴォーリズの建物には無数の暗がりがある。思いがけない所に隠し扉があり、隠し階段があり、隠し部屋がある。一つとして同じ間取りの部屋がない。好奇心に駆られてドアノブを回して、見知らぬ空間に踏み込んだ学生は、その探求の行程の最後で必ず「思いがけないことに通じる扉」か「思いがけない景観に向かって開く窓」か、どちらかを見出す。その点でヴォーリズは本当に徹底している。好奇心を持って、自分の決断で、扉を押し開き、階段を昇って行った者は「思いがけない所に出る扉」か「そこ以外のどこからも見ることができない景色」という報酬を必ず与えられる。信仰への誘いとして、また学びの比喩として、これほど教化的な建築物はない**」

(内田樹・たつる、神戸女学院大名誉教授)